

高浜地区タウンミーティング

平成24年8月9日（木曜）

【市長】 皆さんこんばんは、平日で夜ですのでお仕事でお疲れのところ、このようにたくさん集まっていたいてありがとうございます。また、この高浜地区のタウンミーティングの開催に当たりましては、高浜地区広報委員会の坂本会長さんはじめ地区の役員の皆様にはご協力をいただきました、ありがとうございます。さて、このタウンミーティングですけれども、私が市長に就任させていただいてから始めております。その理由は、どちらが楽かという言い方をすれば、市役所で職員たちは皆さんが来るのを待ってるほうが楽だと思います。そうじゃなくって、松山市は41地区に分かれるんですけれども、我々職員が皆さんのところに出向いて行って、各地区の魅力についてお聞かせいただく、そして課題や問題点、100点満点だってことはないと思いますので、当然課題や問題点がそれぞれの地区にあると思いますので、課題や問題点を聞かせてもらおうと思って始めたのがこのタウンミーティングでございます。まず魅力というふうに申し上げました。最初のところにも、テーマ1は魅力についてになっているんですけれども、なぜ魅力というかというんですね、松山市の41地区それぞれに歴史がありますし特徴があると思います。ですけれどもその特徴とか歴史を無視してですね、行政が主体になってまちづくりをやってしまったら、松山市41地区同じようなまちができてしまいます。金太郎あめのようなことになってしまいます。そうじゃなくてその地区の魅力を一番知っているのは誰かという、やっぱりそのまちに住んでいる皆さんが一番よく知っていると思います。ですのでまず魅力について語っていただいて、皆さんで高浜の魅力の共通認識を持っていただく、そういうことでまず魅力について語っていただくと思っています。そしてその後は問題点、課題点についてお聞かせいただくと思っています。なにせ90分という時間でやりますので、肩ひじ張ってますとさすがに緊張します、疲れまですので、どうぞ肩ひじ張らずにざっくばらんに話をさせていただけたらというふうに思っております。そしてこの松山市版のタウンミーティングの特徴なんですけれども、この場でお答えをできることはもちろんこの場でお答えをいたします。けれども中には、この場ではお答えができないんですっていうものもあります。

例えば国と絡むもの、県と絡むもの、また財政的な問題があるもの、このようなものはできればこの場でお答えができればと思うんですけど答えられないものもございます。そういったものはいったん持ち帰らせていただいて、必ず地区に1カ月をめぐりになりますけどもお返事を返させていただきます。聞きっぱなしにする、やりっぱなしにするとそれはある意味ガス抜きみたいなもので、それをするとなかなかできませんけどもそれはいたしません。聞きっぱなしにはしない、やりっぱなしにはしないというのが松山市版のタウンミーティングの特徴でございます。それでは今日はですね、いつものようにタウンミーティングでは私と、市役所の仕事というのは非常に幅広いものですから、それぞれの担当の部長、企画官、また課長が来ておりますのでそれぞれ自己紹介をいたします。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好でございます。このタウンミーティングの統括をいたしております。普段の仕事といたしましては、窓口におけるサービスの提供、市民課でありますとか市民相談課、パスポートセンター、それから22の支所と7つの出張所というような形で窓口でサービスをさせていただいております。ほかには住民主体のまちづくりでありますとか、NPO支援、男女共同参画、人権啓発と幅広い仕事をしております。今日はよろしく願います。

【保健福祉政策課長】 皆様こんばんは、保健福祉政策課の津野でございます、よろしく願います。普段は国保・年金課とか介護保険課、保育課、子育て支援課、障がい福祉課とか保健所全般の業務とか、そういった市民の方に密着した業務が多くございます。保健福祉を担当させていただいております津野でございます、よろしく願います。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石と申します。都市整備部では道路、また公園などの整備及び維持管理を担当しております。本日はどうぞよろしく願います。

【下水道政策課長】 皆さんこんばんは、下水道政策課の青木と申します。下水道部では公共下水道の整備、下水排水路等の浸水対策の整備、それと防災面ということでがけ崩れ防災対策事業、こういう事業を所管しております。本日はどうぞよろしく願います。

【生涯学習政策課長】 皆さんこんばんは、生涯学習政策課長の前田と申します。

教育委員会事務局に所属しております、教育行政全般の窓口業務を行っております。学校教育から生涯学習、文化財行政など幅広い業務を行っております。よろしくお願ひいたします。

【消防局企画官】 皆さんこんばんは、消防局企画官の岡本と申します。火災、救急、救助、そして地域防災を担当しております。本日はよろしくお願ひいたします。

【市長】 という6人でございます。このタウンミーティングはですね、先ほども申しましたけれども、しんどいことをやろうと、しんどいことをしたらもう一段の皆さんの笑顔が待っているんじゃないでしょうかということから始めたものでございます。できることはスピード感を持ってやっておりますので、今回で30地区目のタウンミーティングになっております。お待たせをしました高浜の皆さんというところなんですけども、これまでのタウンミーティングですぐに施策に、松山市政に反映できるものはすぐにしておりますので、今日もまた皆さんと前向きな話し合いができればと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

【男性】 高浜地区の魅力について発表させていただきます。高浜地区は緑濃い山を背景にいたしまして、目の前には穏やかな瀬戸の海を望み、美しい砂浜が残っております自然の豊かな地域でございます。この地域に住んでいる住民は8月1日現在で、世帯数3,041、人口7,512人が住んでおります。高浜地区で特に誇れるものは夕日が非常に美しいというものです。双海のシーサイド公園が非常に有名ですけれども、それに勝るとも劣らない美しいところでアマチュアカメラマンがよく撮影に訪れております。次に高浜地区の魅力については、高浜潮騒文化マップ、ぶらり三津浜マップに掲載されておりますけど、その中で主なものについて申し上げます。松山市の海の玄関としてにぎわった高浜港は明治38年に開港しまして、日露戦争の兵士の出兵もここからいたしました。ロシア兵の捕虜、山頭火も来松したときはこの高浜港においでになっているということです。現在海の玄関は松山観光港に移っておりますが、非常に残念なことに昨年、大阪別府航路のフェリーが寄港しなくなったということで非常に残念に思っております。また、明治32年に開設して非常ににぎわった梅津寺海水浴場は平成21年に閉鎖されました。2つのことで非常に寂しいと感じておるところです。しかし、現在観光客に最も注目を浴びておりますのは、NHKで放送された「坂の

上の雲」の主人公である秋山好古、真之兄弟の銅像が梅津寺の見晴山、大丸山にございます。観光客が時々訪れております。もう一人の主人公である正岡子規ですが、子規がよく高浜虚子とか河東碧梧桐、夏目漱石を伴って再三訪れたといわれる高浜一丁目にあった延齡館でございます。ここで句会や料理を楽しんだと聞いております。また、夏目漱石の坊っちゃんに出ておりますターナー島、正式には四十島とありますが、この島がよく見えるところとして高浜一丁目に蛭子神社がございます。ここに子規の句「初汐や 松に浪こす 四十島」という句碑が建っております。秋山兄弟、正岡子規、夏目漱石この3氏を結びつけて何かをつくれれば高浜地区の魅力がさらに増すのではないかと考えております。また、高浜六丁目にある白石の鼻の巨石群が古代遺跡ではないかということで、地元の郷土史家と地元が「松山・白石の鼻巨石群調査委員会」を設立し、松山市のフィールドミュージアム支援事業の支援をいただいて鑑賞会、研究会を行っております。この会がよい結果が出ればと期待しております。文化面ですが、ターナー島を守る会がターナー島の管理とか運営だけでなく、地域の文化活動とか美化運動などで活発に活動しております。また、公民館の観光ガイド部が観光ガイドだけでなく高浜小学校の先生、児童を対象とした高浜地区の郷土史の勉強を行っているところです。昔から伝わる高浜踊りという盆踊りを4年前に復活しまして、毎年高浜の盆踊り大会で踊っております。このような文化面におきましても魅力を発信するために頑張っているところです。そのほか、種田山頭火の「秋晴れひよいと四國へ渡って来た」という句碑を高浜一丁目の伊予鉄の線路沿いに平成21年度に建てております。小林一茶が来松したときに句会を開いたという洗心庵が古深里こぶかりにございますし、伊予の豪族河野氏の出城である湊山城跡がございますし、河野一族の子孫といわれる伊藤博文公や地元の有志で寄付をしまして、松をこの梅津寺に植林をしておりますが、ただ1本残っているだけですが、栽松碑さいしょうひが公民館のすぐ裏にございます。そのほか、市道高浜2号線の渡し船も港山から三津に通っております。このように高浜地区には磨けば光るすばらしい宝がうずもれているところです。こういう宝をどのように光を当てていくのかが今後の課題だと思えますが、市のご指導、ご協力いろいろな面でお願いなどあるかと思いますがよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

【市長】 私も松山生まれ松山育ちの人間で小学校は清水小学校、実家が北条に

あるんですけど、皆さんずっと松山におられるとこのきれいな砂浜があるのが当たり前になってしまおうんですけど、私初めて松山出たのが大学で、同じ瀬戸内の岡山で大学生生活を送ったんですけど、岡山でこういうきれいな砂浜、海岸行こうと思ったら岡山市内から車で1時間くらい行かないと海水浴場行けません。しかも海水浴場も、松山のほうが海がきれいだと思います。そして白い砂浜じゃなくて砂利なんですよ、歩くと足が痛いような。松山にいるとこのきれいな砂浜当たり前のようになんて考えてしまおうんですけど、実は当たり前じゃない、すばらしい宝物だということ、いろいろほか宝物あると思うんですけど、この白い砂浜を守っていきたいと思っています。あと、先ほど夕日を見に行っただけですけど、夕日が沈むさま、穏やかな海。海にも穏やかな海と激しい海あるんですけど、穏やかな海も宝物だと思いますし、波音聞いて夕日見てたら心落ち着く風景で、そういうところも高浜の宝だと思います。

【男性】 まちおこしについて、西部高浜地区梅津寺町の提案として、海の上の鯨水族館建設構想ということでございます。コンセプト、表題は坂の上の雲をもじって海の上の鯨としました。また、建築物も展示品と考え、海の王者であり、子どもに人気のある鯨としました。梅津寺町は市の西部にあり、海と山に囲まれた南北に約1キロ余りの砂浜が瀬戸内海国立公園に接し、四十島瀬戸を挟んで興居島を一望する自然豊かな親しみ深い景勝地です。松山地方で海水浴が初めて行われた地でもあり、波穏やかな海水浴場として明治32年開設以来、公園、遊園地として発展、松山におけるレジャーランドとして、百有余年にわたり市民の憩い、楽しみの場を担ってきたところですが、一昨年の遊園地、海水浴場の閉鎖により、一時期年間30万人の利用者があった跡は見る影もなく、納涼台の遺物と今も美しい海浜の自然景観を残すのみです。そこで、地域振興、まちおこしとして国際観光温泉文化都市松山の観光資源である松山城、子規記念博物館、坂の上の雲ミュージアムに続く観光スポットとして、瀬戸内海の資源を活かした、新しい魅力ある水族館、世界一の巨鯨建物、四国一の本格的、県下初の水族館の創設を提案するところです。水族館は、教育と娯楽の複合化された集客施設であり、老若男女問わず家族で楽しめる、全世代、個人から団体旅行者まで利用でき、市民の憩い、癒しの場として寄与できうるものと考えます。施設の候補地は、ロケーションがよく公共交通の利便性が高く駐車場が確保できる梅津寺とし、施設は

納涼台跡地海上にて地震津波の想定を超える高さ、床高海拔6メートルとしたい。また、施設は海上立地を活かし複合施設、ショップ、シーフードレストラン、展望台、釣り堀、海浜レジャーボート、ターナー島めぐり遊覧船等、また、定期的に三津の朝市などの開設を考えたいと思っております。施設の事業は財政厳しい折から、公営にかかわらず第3セクター、PFI事業等で市が主体となり市民への教育、娯楽、観光スポット施設、また、地域振興発展策として夢物語でなく、野志市長が提唱する「たからみがき」のまちづくり、新たな観光戦略としての瀬戸内・松山構想の一環として取り上げていただきたく提案しました。ぜひともご検討よろしくお願ひ申し上げる次第です。

【市長】 このプランを聞いたとき、鯨の形をした水族館おもしろいなと思いました。よく考えていただいたプラン、ありがとうございます。まず、すごく興味のわくご提案なので真摯に受け止めさせていただきたいと思ひます。ただ、以前に北条のタウンミーティングでも水族館を希望しますという言葉をしていただいたことあるんですけど、建てる時、建てたときのお金、そして水を常にきれいに保たなければいけません。魅力のある魚を入れなければならない、おそらくショーもいるでしょう、魚を飼うわけですから飼育員も要ります。維持管理費もずっと要ると、そのあたりも考えなければならないのが難しいところと思ひます。例えば中国5県でいいますと、岡山には水族館なかったと思ひます。鳥取もなかったんじゃないかな、島根はアクオスがある、広島は宮島の水族館がある、山口は海響館がある、四国、高松は屋島に水族館がある、高知は桂浜水族館がある、徳島はウミガメの博物館あったと思ひますが、そんなに大きなものではなかったと思ひます。愛媛は松野におさかな館がある。九州に行く時福岡に海の中道の水族館がある、大分はうみたまごがあるという状況ですけど、そういう状況の中であえてお伺ひしたいんですけど、結構建てる費用もかかります、維持管理費もかかりますけど、そういう状況含んだ上であればいいなという方、手を挙げていただけますか。せっかくの機会だったんで皆さんの意識を聞かせていただきました。確かに観光でお客様来ていただくには一つの戦略だとは思ひますので受け止めさせていただきます。

【市民部長】 経費の面で非常に厳しい、どれくらいかかるか調べたんですけど、小さなものでも12、3億円、ちょっと大きくなると30億円から100億円、

年間の管理費用が2億円から3億円ということで、先行しているところは非常に苦労しているというところがあります。ただ、高いからといって一概に否定するのではなくて、例えばそういう要素を入れた整備できないかどうか、これ課題にして、何か機会ありましたら意見反映させていただきたいと思います。民間活力が活用できないかということも含めまして持ち帰らせていただきたいと思います。ご提案ありがとうございました。

【男性】 40年くらい前に私らの先輩が「たかはま」いうて地元の歴史書いたものを県立図書館と高浜公民館に寄贈しとるはずなんです。その中に、ここには昔、水上飛行機の飛行場があったとか、今の高浜小学校は、昔の新浜尋常高等小学校だって、日露戦争勝った後、高浜小学校に名前変わったはずなんです。地元の小学生がどういう学校の名前のいわれかわからんのです。それ調べて、できれば子どもたちに教えてもらおうとか、飛行場の跡地があるんやったら、跡地とわかるようなことを整備していただけたら、地元の歴史としてはありがたいと思っているので、お願いできたら。

【男性】 私はターナー島を守る会で高浜六丁目から白石のあいなかにある通称大北の浜というところを、今これは県有地ですが、1カ月くらい前に県の管理第一課へ行って、あっこの浜はあんたとこの土地だから清掃をあんたがやってくれんかということで申し込みました。申し込んだ結果が松山市に委託をしますということで、松山市が委託をされとるのかということをお聞きしたいのと、それから松山市が委託をされとんであれば、あっこのごみとか今相当荒れとる。木も大きくなってきてとるし浜にはヨシとか草がいっぱい生えとる。私たちも今高浜六丁目高齢者の方、おやじの会とかいろんな会の人たちの手助けを得て清掃をしておりますが、なにせ粗大ごみ、産業廃棄物を捨てるんがかなりな量が捨てるので年に一回はかなりな量が出ます。もし松山市が受けとんであれば監視カメラを設置していただきたいということと、松山市がもうちょっと清掃をしてきれいにしていただきたいということです。

【市長】 ターナー島を守る会さんには以前伺ったことがありまして、ターナー島に松を生やそうということで、最初は中傷する人とか、悪口言う人とか、足引っ張ろうとする人がおるもんで、「あんなとこ松生えるか」とか言われたことが。そんな中、一生懸命、土を持っていかれて松を植えたという話を聞いております。

心から敬意を表したいと思います。素晴らしい景色をありがとうございます。

【男性】 当時の高浜小学校の先生が主になって私たちを指導していただきました、感謝しています。

【市長】 すばらしい景色をありがとうございます。浜はあそこの浜ですかね、こう行きよったらお墓がある、あそこですか、わかりました。これはまず管理関係はどうなっているのか、白石課長わかりますか、これ。管理のこととごみのこと。

【都市政策課長】 説明されましたように愛媛県と松山市で管理委託契約を行っております。それで今言われる場所について、私どもではっきりとしませんので場所を確認させていただいて、松山市で管理している部分か愛媛県が管理している部分かを後ほど確認させていただいて、先ほどのごみの問題とか清掃の問題とかについても対応させていただきます。

【市民部長】 ごみの廃棄についてですけれども、これはもう松山市全域にかなりの産業廃棄物等の投棄がありまして、今警察の職員等も含めてかなり徹底的な取り締まりを行っております。ちょうど高浜の白石の鼻の近辺にも、夜間投棄がありまして集中的に取り締まりを行いまして、今若干おさまっているとも思いますがけれども、ぜひ皆様方我々がかなり集中的に取り締まりやっとするんですけども、こういう情報がございましたら、すぐに市のほうに、廃棄物対策課に連絡いただきましたらすぐに急行するシステムがありますので、ぜひ連絡いただきたいと思います。一番の効果的な方法は現場を捕まえて処分をするということが近道ですので、ぜひ協力いただきたいと思いますので、今おっしゃられたことは改めて担当課には申し伝えますのでよろしく願いいたします。

【男性】 一言だけつけ加えて、今までも市の清掃課には相当お世話になっております。どうもありがとうございます、よろしくお伝えください。

【市長】 ありがたい言葉ありがとうございます。皆さんから不法投棄してる人見かけてもやはり言いにくいですよ。ですのでそういうときに市役所使ってもらえたらと思いますので、清掃課のほうまたご連絡いただいたらと思います。先ほどのどこが管理かという問題です、国とか県とか市とかありますけども、我々は「これは県のことだから県に言ってください」というのをやりたくないです。といいますのが、もし県のことでしたら市から確実に伝えます。私も一市民から

出た人間ですけど、ぱっと見て市のもんか、県のもんか、国のもんかわからんやないですか。「これ県に言うてください」って言ったら、「また県に言わないかんの」みたいな話になるので、そういういわゆる縦割り行政はしない、市で受けたら県に必ず伝える。でも、やっぱり直接言っていただいたほうが伝わりやすいのは確かです。伝えていただいて「いやいや、そんな大げさなことお願いしよんじやないんよ。ちょっとここまでやってもらったらいいんよ」っていうような、どこまでやってほしいのかっていうのは、やっぱり直接言っていただくほうがわかりやすいというのは今の立場をいただいてわかりました。でもだからといって「これは県に言うてください」という縦割りみたいなことはできるだけしたくないので、もし県のことであつたら県に必ず伝えるようにいたします。今、愛媛県と松山市はいろいろと連携してやれることはありますので、そういう方向で進んでいきたいと思っております。

【男性】 下水道に関して質問がありまして、すみれ野住宅団地は大山寺の南側の山地を切り開いて30年ほど前に開発が始まって、居住も大体30年くらいになるんですが、今のところ大体500世帯、1,300名が居住しております。その污水处理施設ですけれども、当時開発の業者さんは公共下水道がまだ完備されてなかったんで、污水处理場を設置して今のところ500世帯がその処理施設を利用しているんですが、これがもう27年ほどを超えて、耐用年数約20年と言われているものをだましまし使っているんですけど、もしこれがもう動かないということになると、すみれ野一帯が糞尿の山になるということで、過去の自治会長さんも松山市に早く公共下水道とアクセスしてほしいという依頼をしたと思うんですが、なかなか現実に至っていないということで、今後の下水道の配備計画を教えてくださいと思います。

【下水道政策課長】 すみれ野団地の污水处理の件は数年前から私ども相談を受けさせていただいております。ただ状況としましては、この高浜地区の下水の終末処理場が空港の南側を埋め立ててつくった西部浄化センターになりまして、下水道整備は処理場をつくって下流から順次整備を進めていくという状況がございます。そういう中で南吉田から垣生、富久、北吉田と順次整備しておるんですけども、なにぶんにも範囲が広いということで、そちらのほうまでまだ至っていないというのが現実でございまして、大変費用もかかっておりまして十分できてな

いんですけれども、もう少しお待ちをいただきたいという状況です。

【市長】 はい、これについては下水道の松山市の全体の計画についてのお話を私からさせていただきます。どういう状況かという、実は計画を二度にわたって見直しております。今から18年前、平成6年、このとき松山市が下水道の計画を立てて、1年間におよそ160億円を投資して下水道をどんどん進めて、平成32年には下水道普及率を96パーセントにしようという計画を立てていました。でも徐々に景気も悪くなっていった、このペースで進めると松山市全体の財政にも影響を及ぼすことがわかってきたものですから、ちょっと規模を縮小しようということで平成12年には半分の額、1年間に80億円程度という計画に縮小しました。そしてその後、平成19年度に2回目の見直しを行いまして、およそ65億円程度の計画に縮小したということでございます。これはやはり財政が、今厳しい予算状況にあります。ですので下水道を早く整備できるにこしたことはないんですけれども、このままのペースで下水道を進めたら下水道だけが突出してしまう、ほかの事業ができなくなってしまうという当時の判断から、2段階にわたって縮小させていただいた流れがございます。

【男性】 もう皆さんご存知のように、関西汽船、阪神航路が廃止になって以来、松山観光港をはじめ高浜地区の衰退が看過できなくなっております。高浜地区住民の一人としてもこのまま傍観することはできません。高浜地区の住民だけでは問題解決は難しいと思います。そこで、松山市まちづくり課と高浜地区を中心に大学の専門の先生をはじめ、県やターミナルなどその他の関係機関を交えた、仮称、松山観光港のまちづくりを考える会の立ち上げを行政にもお力添えをお願いしたいと思います。

【市長】 私からちょっと述べさせていただいて、市民部長につながうと思いますが、私から逆に皆さんに提案があります。今、松山市ではまちづくり協議会をつくっております。今、準備会を含めて12の地区でまちづくり協議会ができております。平たく言うと、いい組織ができたなら、まちづくりに関する財源と権限を地元にお渡ししましょうという組織です。いい組織というのは、公平公正な組織。地元でそういう組織ができたなら、まちづくりに関する財源、お金や権限をお渡ししましょうというのがまちづくり協議会です。これをつくっていただけたら、大学の先生とおっしゃったんですけれども、愛媛大学には藤目節夫先生といい

ましてまちづくりの権威みたいな方がいらっしゃるんです。もちろんそういう組織ができたなら準備段階から、市役所の職員も応援する、もちろんまちづくりに対する知識を市役所職員持ってますから、こうやってしたらできるんですよっていうサポートにもまわります。できたらそういうまちづくり協議会という組織ができればと思っているんですけど、これ専門家の市民部長にお渡しします。

【市民部長】 今ちょうど同じような状態になっている地区が堀江地区です。堀江には高浜と同じように呉松フェリーってありまして、これが高速道路の無料化、料金安くしたときに撤退してしまいました。フェリーで人を運ぶ、そのことでにぎわいができていた地域がそのフェリーがなくなるわけですから、一気に遮断されてしまった。そこで今までの人の流れが絶える、物流がなくなる、物が売れなくなる。そこで堀江地区は、既にまちづくり協議会があったんですけど、なくなった港湾施設を何とかまちづくりのため、活性化のために使えないかということで「新しい公共」に取り組んで、住民が我がこととして活性化に努めております。その結果、海の駅を今つくっているんですけども、その海の駅がちょうど東屋のようにできて、人が集まる施設つくってそこで住民の方が、人を集める形で、祭りをやったり音楽会をやったり、たちまちその効果が出て、フリーマーケットができたり、いろんな夜市ができたり一つの方向性ができております。こうなりますとももちろん行政も参加していきますので、そのときに住民の方が何をしたいかというのを答えが見つかるんじゃないのかという形で、今一緒になって取り組んでおりますので、ぜひ参考にさせていただいたらと思います。今市長が申し上げましたように、行政だけがやる、住民だけがやるというのはなかなか難しいことがありますので、一緒にやると、もしかしたら大きな成果が上がるかもわかりませんので、ぜひまたそのあたりはアドバイスもさせていただきたいですし、また協力もいただきたいと思います。以上でございます。

【市長】 私から一つ追加で、実はフェリー航路が休止といいましょうか、なるっていうのは行政にちょっと早く連絡が入りますので、それを受けて別のフェリー一会社に航路を何とか維持できるようにお願いできないかと動いた経緯もあるんですけど、やはり今の事情から考えるとなかなか収支のバランスが合いそうにもないということで断られた経緯もあります。私ども行政としてはやっぱりそういうのは大事だというのはわかっておりますので、手をこまねいて見ていたわけで

はなくて、これからも時期、時期で確実な手を打っていきたいと思っております。

【男性】 白石の鼻の巨石調査といいまして、私たちが古代の人工的につくられた太陽観測施設ではないかということを確認するために調査を続けています。まだはっきりとした裏づけはないんですけど、人工的につくられた太陽観測施設と信じております。今、季節の分点と至点、年4回あるんですけど、春分、夏至、秋分、冬至と、そこを太陽光線が通過する正確なラインがはっきりとわかっております。その説明会を今、年4回、分点至点、夕日と関連がありますので、夕日の鑑賞会及び説明会を年4回開催しております。参加者が一番多いときで70名を超えたときがありまして、その中に女性の参加者もございまして、あるとき「この近くに公衆トイレはないですか」と言われまして、「ちょっと遠いんですけど観光港の多目的グラウンドの横にあるんで、車で来られてますか」「はい」「ちょっとそこまで行ってください」と言ってその場は何とかおさまったんですけど、あの県道39号線、観光港からずっと堀江まで公衆トイレが見当たりません、県道沿いに何か所か設置可能な場所があると私はみてるんですけど、結構白石の龍神社の参拝の人とか、あの辺釣りのメッカなんで釣りの人、夏場の海水浴を楽しむ人、それから砂浜、大北の浜から白石の鼻にかけて結構海もきれいですし、砂浜もありますし、そういう面で訪れる人も多いと思います。そこで、公衆トイレの設置が可能かどうか、問題は多々あると思うんですね。水の問題とか管理の問題とか、その辺をご検討願ったらと思います。

【市民部長】 来る前に心当たりのところ訪ねてきたんですけど、例えば公園つくったときに附属施設として公園につくる、建屋、箱物つくったときに附属としてつくるということはあるんですけど、道の途中にぱっと建てることがなかったもんですから、例えば、白石の鼻が巨石群として今皆さんやって、これからのぎわいとかできてきたときに検討してみたいんですが、今お答えすることはできません。海岸につくることは瀬戸内海洋汚濁防止法がありまして難しいと思うんですけど、言われるのは県道の山側のどこかにつくったらいいんじゃないかということだと思うんですけど、一応検討課題ということで持ち帰らせていただきたいと思います。

【市長】 私も白石の鼻は本当に不思議で、何であんな大きい石があそこにあるんじゃないかと、どなに運んだんじゃないかと以前から思っているところで、あのあ

たり以前、ごみの違法投棄がありましたけど、最近はどうですか。大分おさまってきましたか。そうですか、わかりました。これ持ち帰らせていただいて検討課題とさせていただきます、よろしくお願いします。

【男性】 私は公園の関係で、実は今年の4月に小中の通学路で不審者の被害者が出まして、4月10日からすみれ野の中でボランティアで見守り隊をつくって、朝の通学時間帯、下校時の時間帯、何人かが毎日出ていって見守っております。まずそれが発端であったんですが、それ以降子どもらの通学時に車が突っ込む事故が全国で出ておまして、子どもの安全に今重点を置いて見ております。その中ですみれ野の中で集会所がありまして、そこから高浜トンネルの県道に出る通学路があるんですけども、その間が約50メートルほどありますけど、道幅が2メートルちょっとしかなくて車がいっぱいいっばいで、そこを小中70名から80名くらい毎朝通学をしております。そこを広げてほしいということはないんですけど、通学路の変更にもなるんですけど、県道に面したところにすみれ野南公園がございます。入り口は手前にあるんですが県道側のほうは柵でしておりますので、そこに入入り口をつけていただければ、県道の歩道へすぐ出れます。そこをできれば一回見に来ていただくか、検討いただきたいと思います。

【都市政策課長】 ただいまのご質問に関しましては、また現場見させていただいて、現在たぶん県道側でないほうにあると思うんですけど、逆に県道側で本当にいいのか、逆に県道から入ると危険だという方もおいでるかもわかりませんが、全体的に地元の要望なりを公園緑地課へご相談していただけたらと思います。

【市長】 どうでしょうか。はい、担当を公園緑地課にさせていただきます。

【都市政策課長】 私から連絡して、公園緑地課の職員を行かすようにします。

【市民部長】 後ほど終わってから連絡先だけ教えてください。

【市長】 タウンミーティングは8時半がめどになりますけども、8時半で我々さっと帰るわけじゃありません、おりますので、先ほどの場所についてもまた言っていたらと思います。また気になる場所などおっしゃってください。

【男性】 今ほどの要望につきましては、児童の安全が一番大事でございまして最優先で取り組んでいただきたいと思います。それと公園に関する願いがあるんですけども、私ども今公園緑地課が担当する都市公園が2カ所、正確には3カ所、約4,500平米。あと子育て支援課が担当する児童遊園が3カ所で約90

0 平米。これは現実に公園管理協力会として、都市公園だけでというわけにはいきませんので、面積的に多少の差はあっても同じような形態なんで、実際は私どもの公園管理協力会が担当しております。ですが問題がありまして、なぜ同じような公園で窓口が一本化できないのかなという疑問を持っております。そうすることでより我々の協力会も仕事がやりやすいんじゃないかなと思いますので、前々から担当の方にはそれらしいことは申し上げております。同じ作業をするわけです。聞きますと予算が違くと、助成かなんか言ってましたね。その辺が、お金の問題が色ついてないんで、ぜひ処理する場合には我々が一本で動けるようにぜひともお願いしたいと。それともう一件、高齢者対象の高齢クラブ、これは高齢福祉課が担当。あと同じようなふれあいサロンは社協がやっておりまして、それを運営する方々も70を超えた同じようなメンバーです。それでやっとな維持しとる状態ですが、ここら辺がやっぱりさっきお話した予算関係の差で、それぞれが別個に書類をつくって運営しよるのが実態です。70を超えたような方が書類が多いということで大変ご苦労されとるのを見まして、何とかこのような点、本当の意味で高齢者の健康と福祉を求めるという意味で、複数の担当あるいは書類については再考を願いたいと思います。

【市長】 最初のことは組織のことになりますので私からお答えをさせていただきます。皆さんよくご存じなのが、幼稚園は文部科学省、保育所は厚生労働省です。国はそういう区分けがありまして、都市公園と児童遊園っていうのがあるんですけど、都市公園は都市公園法に基づいてできている、そして児童遊園は児童福祉法に基づいてやっていますので、都市公園は公園緑地課が担当、児童遊園は子育て支援課が担当ということですが、皆さんからしたら公園は公園ですよ。松山市は公園緑地課が子育て支援課と連携をして対応しておりますので、公園緑地課へ言ってください。私がよく市役所の中で言うておりますのは、やっぱり多くの課がありますが、よくあるのは市役所に限らず組織というものは「これお前のところやろが」「これお前のところやろが」と言うて絶対すき間ができるんです。じゃなくてまず動こうと。まず動いて重なったらそこで「じゃあここはこっちの仕事でやればいい、こっちの人でやればいい」という区分けができますので、まず動きましようとお話をしております。そういうセクショナリズムに陥らないように市役所の中では常々言うているつもりです。この公園のことについては整備

ですとか改修のことですとか遊具の点検、修繕のことは公園緑地課が子育て支援課と連携してやっておりますので、もし至らぬ点がありましたら市長へのメール制度もありますので、ちょっとまだまだ縦割りだぞということがありましたら言っていただけたらと思います。

【保健福祉政策課長】 ご質問の、わかりにくい、地域では同じ人が高齢クラブそして地域のサロンにもお出かけいただいて書類が大変多くて手間がかかっているということで、大変ご迷惑をおかけしておりますが、まず、高齢クラブについては、高齢福祉課が担当しております。また地域のサロン運営事業につきましては、介護保険課がお手伝いして準備をさせていただいてます。そういう関係でおかげをもちまして23年度は10万人のご利用をいただきました、誠にありがとうございます。今お話を聞いた中で書類がいっぱいあって難しいというご意見いただきましたので、さっそく持ち帰りまして書類の問題に関しても見直しができるものかどうか、またそれが省略できるのかどうかについては各担当課へ連絡しまして、できるだけの検討をさせていただきたいと思っております。

【男性】 高浜校区青少年健全育成でお世話しております。先ほど子どもの通学路の問題があったんですけど、市長に高浜校区で一番危険な通学路の改善について特に要望したいと思っております。皆様ご承知の通り4月の京都府の亀岡市の集団事故、こういったことを受けまして8月中におそらく県教委、松山市教委、地域住民、国土交通省、いろんな方のチームで、松山市の危険箇所221カ所を共同で検証しとると聞きます。高浜校区も明日その検証が行われるということで、タイミングが一番いいんですけど、先輩に聞きますと20年来放置された箇所がございます。今写真を見ていただいていると思っておりますが、この写真見てもらったら位置関係が特にわかるかと思っておりますので、この番号順に順次説明いたします。まず写真1につきましては、高浜中学校手前南約100メートルの位置をしております。この土のうを積んだ区間が約40メートル、歩道が途切れた区間です。この歩道の向こう側にフェンスのがけ、これはもうほとんど壊れて、いつ崩れてもいような感じであるから土のうを積んだということが言われております。次に2の写真をご覧ください。2はちょうど子どもらが通学しておる様子です。これ7時から8時半までが、子どもたちのそばで一方通行です。この歩道は、白線から白線までが約3メートルです。子どもたちが今の状態でいけば車が通ってないとい

うことで白線の中、または白線の上、土のうの上を歩いておることがご覧になっておるかと思ひます、これ通常のスタイルです。3番、これが車が後ろから来たということです。こういうところは非常に危険な、こういった幅でいきますと車が約2メートルありますので、子どもたちと車の間、約30センチから40センチになつとるかと思ひます。ということでは白線から向こう、土のうの上を歩いておる子どももたくさんおひます。これは天気がよいところです。下の4番、これが雨のときです。雨の場合でも子どもたち、こうして傘さして来るんです。ですからこれがたくさん小学校の上の山のように、子どもたちがたくさん傘さした場合は、大型車またダンプとか来た場合はほとんどすれすれとか当たる場面があるかと思ひます。特にここで言いたいのは、こういう形で歩いて、もし車と接触した場合であればたいがい車が悪いと言われます。仮に子どもたちが土のうの上を歩いていて車の側に倒れた、もたれかかった場合はこれは子どもたちの側にも賠償責任がかかるかと思ひます。ですからなぜこの道に歩道ができないかということで私もいろんな方に聞いてみました。20年も前からこの件については陳情をしとると。今見てもらったところ、いつ事故が起きてもおかしくない状態です。市長は日ごろから記者会見でも、子どもたちは地域の宝とおっしゃっています。私たちが地域の子もたちは皆私たちの高浜校区の宝ですので、ぜひ早急に、優先順位はあろうかと思ひますので、この区間が一番危険ですので最優先していただいて、早く子どもたちが安全に登下校ができますようによろしくお願ひいたします。

【都市政策課長】 この話は以前から私も知っておりますが、ただこれ、同意ということで用地の提供がなければできない事業です。やはり地元から、これ20年来の懸案事項ですが、土地の所有者の同意を取ってもらう働きかけがどんなですかね。行政もやりたいんですけど、やはり地元の同意がなければ、収用事業ではございませんので難しい面がございます。この道路は重要な道路だと思ひますので、そこで車線が3メートルで、もう少し狭くする方法はあるんですけど、したとしても2メートル75とかちょっとするくらいのことです、なかなか人が歩くには非常に難しい。

【市長】 私現場を見てないんで申し訳ないんですけど、例えばどうしても土地の提供をいただけないのであれば、こういうように道を膨らませるとかそれは無

理、できない。じゃあ通学路を変えるとか、変えられない。じゃあもう行き詰ってるんですね。ちょっとこれはもう持ち帰らせていただきます。

【男性】 収用法の適用はどういうものが対象でしょうか。

【都市政策課長】 収用法は幹線道路、通過交通を排除する、環状線とか大きい道路、絶対に必要な道路として完成させんといかん場合には収用法がかかります。今回の場合は生活道路、極端に言ったら用地の提供があったらできる道路ですので収用法の適用は難しいと思います。

【市長】 ちょっとこれは持ち帰らせてください。

【男性】 私は今出た道路のお墓側の山に土地があるんで、今現在そこにイノシシが出よんですよ。そのイノシシを駆除しようと思って松山市に言ったんですけど、児童生徒に危害があったらいかんからわなかけさせてくれ言ったら、それは理由になりませんっていうて却下されたんです。通常の野菜被害がある写真撮ってそれで書類届けてくれ言うんで、1カ月くらいかかって今書類揃えよんですけど、今の話に付随してそれだけ事情の悪い道路通学しよって、児童生徒に危害が加えるという理由でわながかけられんのはなぜかっていうのをちょっとお聞かせいただきたいんですが。

【市長】 今日は専門家はいないですか、すみません。これについても持ち帰らせてください。

【男性】 こういうご時世ですので、行政もお金をかけない方策が現実として大切なことかと。その第1点でございますが、番地の呼び名の問題です。松山市内全般にわたることでもございます。松山市内でも甲〇〇番というのが結構ございます。私のところが乙〇〇番です。全国から年賀状いただいでる中でも、甲とか乙とか番地のついてるところ、ほとんどないんじゃないか。ネーミングというのは非常に大切ですので、ネーミング、名称変更によってイメージアップを図っていく方法はないものだろうか、そのような提案です。あと、イメージアップ戦略で公共交通の駅名を改めるとか、例えば先般、香川では「さぬきうどん駅」というのが限定的に命名した例がございます。これは目的が違うわけですが。いずれにしても、お金をあまりかけなくてまちのイメージを上げていくという戦略も必要ではないかと考えております。第2点目は保育所の問題として、例えば小学校の空き教室を利用するとか、校庭内にプレハブを建てて保育所を設けると

か、そしてなお、地域のお母さんやおばあちゃんを雇用して、親近感あるまちづくり、活性化を図れるのではないかと、このようなことによってまちも違った改革、活性化を図れるのではないかと考えております。最後に身近な問題で、高齢、孤独者の対策で、梅津寺の高齢者は22年の国勢調査で75歳以上が106人もいるんですね、町民が少ない中で非常に多くございます。そして一人住まいも多くなっておりまして、老人にとってコンビニの1軒もない買い物の不便なところになっております。今後、安心できる対策につきまして、行政の助言等を得て解決していきたいと考えている次第です。

【市長】 私から説明させていただきます。まず町名ですけど、確かに味気のないものがあるかもしれません。これ変更するとなると、どういう名前にするのか、その名前を皆さんがオーケーと言ってくれるのか、これは地元の声を集約していく作業が必要になりますので、行政がこういう名前にしましょうという方向ではなくて、地元でこういう名前に変えよう、変えたらどうという言葉にするんだということ、地元のほうから動いていただくものだと思います。そして、駅の名前の変更につきましては、伊予鉄道さんのことになりますので、伊予鉄道さんに言っていただく形になります。そして、小学校と保育所の併設につきましては、これから少子高齢化がますます進展してまいりますので、大事なお話だと思います。ただ、保育所は法律に基づいてつくられるものですので、どれだけのスペースが必要ですか、給食室が要りますとか、子どもたちがハイハイする場所が要りますとか、決められたスペースが要ります。そして、環境の問題も言われまして、0歳の子もいる、1歳の子もいる、2歳の子もいますから、小学校のにぎやかな空間、チャイムが鳴る空間だとお昼寝の時間もありますので、そのあたりで難しいところがあるようです。でもやはり、地域で子どもを育てるのも大事な観点ですので、検討課題として受け取らせていただいたらと思います。

【市民部長】 コンビニのお話、買い物難民という言葉がありますように、人口が少なくなりますとスーパーとかが撤退して非常に困るという現象があると思います。高浜地区は高浜線があって電車がありますので、まだ、三津で買い物ができる環境があると思います。ただ、それでもどうしても足らざる、お年寄りが行けない場合には地域で助け合う、地域でどうしても手に余る場合については、声を合わせて、今は配達してくれるスーパーもあります、そういうところ情報を収

集していただくんですが、どうしても自分たちでできないということでしたら、行政と連携してみましょ。そのかわり、一人一人の声ではなくて、町内会連合会単位くらいで意見をまとめていただいて、ここまではできるけど、ここから協力してほしいというのがありましたら、市民部長、市民参画まちづくり課でどうい支援ができるかというのを検討したいと思いますので、お声かけいただきたいと思ひます。

【男性】 高齢者クラブの仕事もさせていたひいておひります。市道高浜68号線が高浜六丁目にあるんですが、当道路が幅も狭く、ため池とがけに挟まれている上、利用する住民のほとんどが高齢者で、デイサービスの車が通行するのにも大変危険です。また、各所でひび割れが発生しており、雨水の浸透で崩壊する恐れもあります。事故が起こってからでは遅いのです。そこで平成20年7月に道路建設課に改良工事のお願いをいたしました。それから4年近く経過をしておひりますが、いまだに着工される気配もございません。その間、毎年のように担当者が交代されまして、その都度新たな問題が出てまいりまして、工事が延び延びになっておひります。最初から工事内容が十分に検討されなかったのではないかと疑問に思っておひります。このことをわがまちメールさせていただきました。その返信が誠に失礼ですが、あまり本題に対する答えになっていないような返信なんです。これではいかんなどいうことを申し上げておひきます。続いて、7月10日に、六丁目の町内会長はじめ、改良区の理事とか我々5名が都市整備部道路建設課に行った。事前にアポを取りまして話し合いをしました。4年も、申請して、危険な細い道路を拡幅工事をしてくださいと言っておるにも関わりませず放置されているわけです。危険な状況で、いまだに先ほど申しましたようなことで、建設の目処が立ってない、それはどういことですかといこと。

【市長】 担当、都市政策課長おひりますので、あとでお話をお聞かせください。わがまちメールで質問を受けていったん回答させていただきます。担当がおひりますので、話を聞かせていただきます。

【女性】 サロン事業に携わっておひります。このまち高浜は、高齢化率が4月現在で29.9パーセント、まあ30パーセントの高齢化率になっておひります。もちろん、独居老人も9パーセントくらいかなり多いんです。このまちは、老人に対してすごく優しい事業が過去から行われていることも、魅力と思ひていますが、

今回は、この地区で行われておりますサロンについてお話させていただきます。
今、この地区には7地区、いずれ8地区になる予定のようですが、サロン事業が行われて、孤立防止、介護予防に努めております。松山市は今年もこのサロン事業に1億1千万余りの予算を取ってくださっていることに、私は非常に驚いているんですけど、これを今サロン実施しているところだけが享受するのではなく、もっと多くの地区にサロンをつくり、またもっと多くの方に参加してもらいたいというのが願いです。また、市長は農園サロンに体験入園されていると聞いておりますので、市長の体験をお聞かせ願ってより多くの方がこのサロンに参加してくださるようにお願いしたいと思います。一言よろしくお願いいたします。

【市長】 いきいきサロンについて述べさせていただきます。松山市内にはふれあい・いきいきサロンがあります。お年寄りの方って家に閉じこもりがちになったりとか、地域とのつながりが薄れてしまったりとかありますので、できるだけつながりがあるほうがいろんな面でいいですから、ふれあい・いきいきサロン事業をやっております。やっぱり意味があるって思うので、1億円を超える予算投入させていただいております。で、問題は、女性の参加は非常にいいんですけど、男性の参加が少ないんです。私が前の仕事の通勤のときに市民農園のそばを通って出勤しておりまして、農園だと結構男性が参加してるんですよ。家族で参加してるんで、これおもしろいんじゃないかなって思って担当課に投げかけたら、担当課のほうも考えてまして、じゃあサロン農園をやってみましょうかということで、男性の参加がかなり増えております。こういった形で、高齢の方が閉じこもりがちにならない施策を展開していきたいと思っております。

【女性】 高浜五丁目の広報委員してます。観光港の前の公園ですけど、一応5年契約で県の港湾課から借りて、年に4回掃除をしてるんですけど、子どもがだんだん少なくなって、遊具も使うのが少なくなって、だんだん高齢化して、一応ウォーキングで歩いている人は多いんです。それでその公園の中に高齢者が使う器具、体力増進につながる器具を置いていただけたらいいんですけども、どうでしょうか。

【市長】 公園に高齢の方が使える遊具、最近背中伸ばすやつとか、ありますけれども、これは担当は。

【都市政策課長】 またご相談していただいたら、担当が公園緑地課ですので、

またご相談いただいて。

【男性】 なぜ公園が来んのよ。

【市長】 公園が所管でなかったも、責任を持った者が答えれるようにしておりますので。津野課長から答えられますか。

【保健福祉政策課長】 失礼します。児童遊園地の中に置いてる遊具の設置になるかと思います。都市公園にいたしましても、都市政策と話しまして、現場を見させていただく中で、健康に役立つ遊具とか、そういうものについて逆にお教え願いたいというところです。

【市民部長】 場所わかってなかったもんですから、公園としての位置づけのものでしたら、公園管理協力会等から、街区公園にも、健康のための遊具は今ところどころ必要なところについてはつくってるんです。ですからそういう要望があった場合には応えることもできますので、今いただいた話、また終わった後で、こういうものっていうのを教えていただいて、公園緑地課につながさせていただきますので。申し訳ございません、さっき全部答えていうことあったんですけども、我々6人くらいでできるだけ答えさせていただいて、足らざるところは、宿題という形でお許しいただきたいと思いますので。でもきちんと必ずお答えさせていただきますので。よろしくをお願いします。

【男性】 今日お聞きしたいのは災害時のサイレン、これ高浜に今6カ所、7カ所くらいあるんですが、全部海側にあります。それで緊急連絡とか緊急放送が流れてもほとんど聞こえない場所があります。今年度デジタル化して改善しようというお話を聞いとんですけども、どのへんまで進んでいるのか、また改善されたらどの程度よく聞こえるようになるのかをお聞かせいただいたらと思います。Jアラートも恐らくそれから流れると思うんですけども、今の状態ではほとんど、窓開けてじっと澄ましとかないと聞こえない場所があります。聞こえるところはもう頭の上でガンガン鳴りますけども。そのへんのところよろしくをお願いします。

【消防局企画官】 消防局から答えさせていただきます。今言われました7カ所につきましては、ポンプ蔵置所とか公園とか7カ所に既存の施設がついております。で、言われましたところはすみれ野公園とか、その周辺のことだと思いますけど。はい、松ノ木。その場所には今年度中に1基増設しまして、今年度中に全部で8基、高浜地区に8基とさせていただきます。それはすべてデジタル化して、

デジタル化しますと音声も鮮明に聞こえますし、音達距離、放送する距離も1.2倍くらい伸びると思いますから、サイレン等は鮮明に聞こえるようになると思いますので、また聞こえなかった場合は、デジタル化になりますと公民館長さんとか自主防災組織の会長さんが、自宅から放送ができる体制もとっておりますので、再度連絡をしたほうがいいものにつきましては、そのような形もとれるようになっております。以上でよろしいでしょうか。

【市長】 最後に私から結びとしてお話をさせていただいたと思います。先程なぜ公園が来てないんだというお話がありました。それぞれ統括のできる人間を連れてきているつもりではございますけれども、声を真摯に受け止めさせていただいて、今後の検討課題、今後に反映をさせていただきたいと思います。

私からは、ちょっと思いを述べさせていただこうと思います。縦割りみたいな話が出ましたけれども、縦割りはしたくないという表れに、市役所には小さなお子さんを連れての方も来られますし、おじいちゃんおばあちゃん、足が不自由な方も来られます。そういった方が、1階、2階、3階いろんな課に回っていただくんじゃなくて、特に福祉が今複雑で、多岐にわたっておりますので、福祉総合窓口を別館の1階に設けさせていただきました。7月からスタートしております。105の業務が一括して受けられる場所をつくりました。縦割りはしないという思いの表れですので、もしまた至らぬ点がありましたら、言っていただきたいと思います。通学路の話が出ましたけれども、通学路もできるだけ安全にしたいという思いから、先進地である金沢に教えていただきに行ったんですけども、大体親と子どもで通学路の危険な場所、丸してくださいって言ったら、大体親の意見が勝っちゃう、子どもの意見が消されてしまうので、子どもにも一枚一枚危険なところを印してくださいっていう形での通学路対策をしようとしております。一人一人の声を大事にしたいっていう表れですので、ご理解いただきたいと思います。

最後に、財政についてお話をさせていただきます。皆さんからお気遣いの言葉もいただいたんですけども、短く。松山市の歳出、今一番大きなウエイトを占めているのが民生費、いわゆる福祉にかかるお金です。これが松山市だけで、一年だけで50億円増えたんです。そしてこの中には皆さんよくご存知の生活保護費がありますけれども、生活保護費は、決算ベースで松山市だけで1年だけで15億

円増えたんです。今、国においては1千兆円の借金を抱えてるって言われています。中学校で勉強した話ですけど、国庫支出金とか、地方交付税交付金という形で、地方にお金が配分される。でも大もとが1千兆円の借金を抱えてるわけですから、地方に回ってくるお金が膨らむというのはちょっと考えにくい。ですから、私たちも税収が上がるように、コストもできるだけ削減してきましたけれども、今、この福祉にかかるお金がどんどん増えていくっていうのは、一自治体の努力のレベルを超えています。例えば50億増えたらどっかで50億絞らないと財政のバランスは崩れていきます。私もいろんな要望をいただいて、市長の人気取り考えたら、あれやって下さい、これやってくださいって言われたら「はいはい分かりました」「これやりましょう」「あれやりましょう」って言うほうが、私は市長の人気取りから考えたら、そっちのほうが楽です。でもそれは、将来の子どもや孫にツケを残すことにほかならないと思っています。でも皆さんがここで気遣って、声を上げなくなるのは違うんです。皆さんが何を求めてらっしゃるのか、その声を受け止めて、事業の優先度をつけさせていただくのが、我々の仕事だと思います。今何をやらないといけないのか、そこにお金をどれだけ投入するのがいいのかを決めさせていただきたい。これからも現場現地を大事にしていきたいと考えていますので、皆さんからはなかなかもどかしい思いをさせてしまうかもしれませんが、このもどかしい思いと、行政の対応というのはまた別だと思いますので、行政の対応でちょっとどうかなというところがありましたら、市長へのメール制度も設けておりますので、また言っていただいたら、いい方向に向かうかと思っておりますので、また声をいただけたらと思います。今日は長時間ありがとうございました。

— 了 —